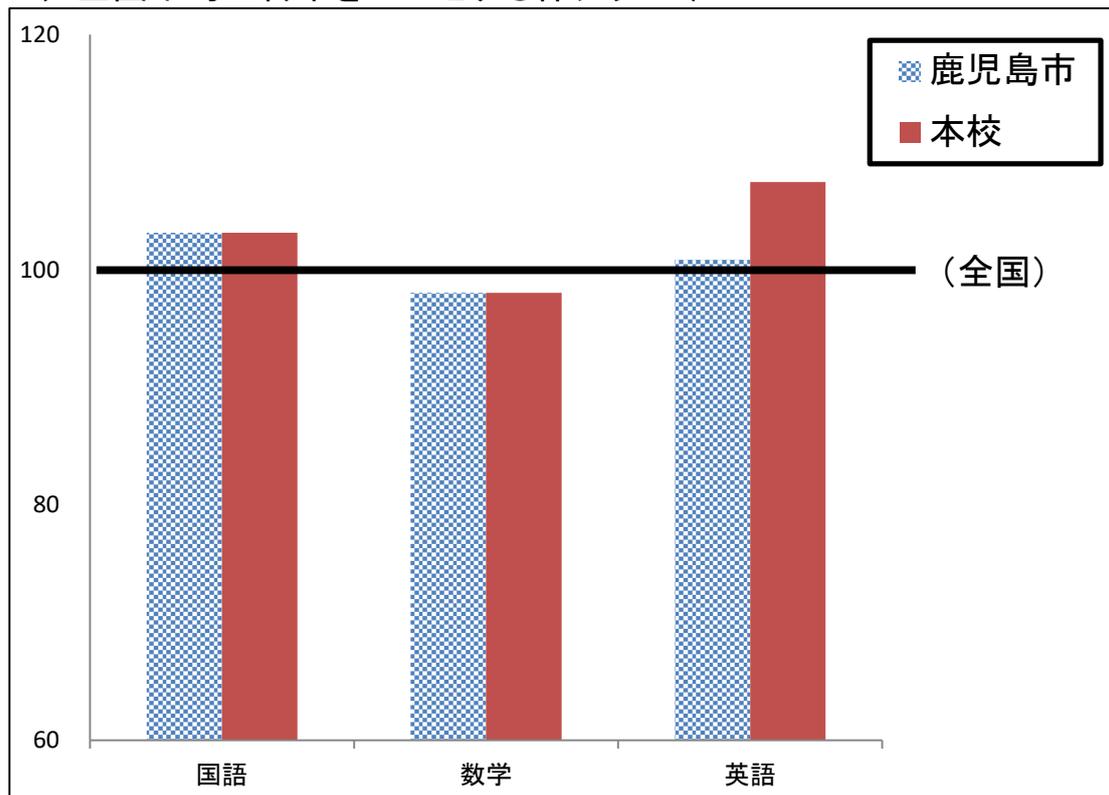


## 令和5年度全国学力・学習状況調査結果について

鹿児島市立伊敷中学校

### 1 自校・市・全国の平均正答率の比較

〈 全国平均正答率を100とする棒グラフ 〉



### 2 自校の課題に対する改善策

#### 〈国語〉

すべての分野において、平均を上回る結果となった。生徒自身がゴールを明確にし、「何を学ぶのか。」「何ができればいいのか。」を理解しながら取り組んだ成果と考えます。しかし、個々の問題で見ると、文章の要旨を捉えたり、情報と情報関連付けて理解したりすることに課題があります。今後は、文章構成の仕方や言葉の使い方等の読み視点を意識させた学習や複数の資料を読み比べて考えを述べる学習を取り入れながら、自分の考えをまとめる活動に重点的に取り組んでまいります。

#### 〈数学〉

知識・理解を必要とする問題に対して課題が残った。特に、累積度数などの「データの活用」の領域の正答率が低く、新出語句の意味の理解不足が目立った。他の語句と関連付けて、捉えていけるように取り組むとともに、記述式で解答を説明するところの問題の無答率が高かったので、授業でグループでの話し合い活動の中で、説明する場面を取り入れたり、テンプレートの活用での説明文を書く場面を取り入れたりして、数学的に表現する力を付ける指導の工夫に取り組んでまいります。

### 〈英語〉

「聞くこと」「読むこと」「話すこと」においては、概ね全国の正解率を上回る結果となりました。今行っている言語活動を充実させつつ、課題として挙げられた「日常的な話題について概要を捉える」ことができるよう様々なテーマについてのまとまりのある文章に多く触れさせ、登場人物の行動や心情の変化、全体のあらすじなど、書き手が述べている大まかな内容を捉えられるようにしたいです。

またその一方で、「話すこと」においては正答率、無答率ともに課題が残りしました。こうした問題に慣れさせ、また一人一人が自信をもって話すことができるよう、①ICT機器を活用すること②ペアやグループで他者と意見交換をすること③ALTや外部人材など相手意識をもつことの3点を意識させながら、習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて自分の気持ちや考えなどを適切に表現する言語活動の充実に一層重点的に取り組みたいと考えます。

### 〈全体的に〉

生徒質問紙の結果から、約9割の生徒が同じ時間に毎日起きると答えています。同じ時間に寝ているのは約7割の生徒であることが分かりました。課題の量や質について検討するとともに、家庭学習以外の時間の使い方について学校、家庭で協力して指導していく必要があるように感じました。課題の量や質に関しては、校内で実施されている学力向上委員会等で検討してまいります。家庭学習以外の時間の使い方に関しては、PTAや学校だより等を活用し、学校と家庭が連携して生徒の時間の使い方について考えるよう、呼び掛けを実施してまいります。

次に、「学習にICT機器を活用することは勉強の役に立つ」と感じている生徒が多く、本校では県・全国よりも授業中にICT機器を多く活用していると生徒は答えていました。今後も各教科で授業内におけるICT機器の有効活用を心掛けてまいります。さらに、家庭学習においてもICT機器を活用し、個別最適な学びにつながるよう工夫を凝らしていきたいと思えます。

最後に、本校の生徒は「先生は、理解していないところについて、分かるまで教えてくれているか」という質問に県や全国よりも肯定的な回答をした割合が多かったです。本校職員の丁寧な指導が伝わっている証拠だと感じます。引き続き、一人でも多くの生徒が学習のつまづきが少しでもなくなるよう、個別最適な指導を実施してまいります。